令和４年度　あきる野市生涯学習ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ養成講座「講座記録」

「企画・運営」コーディネート事業グループ（２グループ）

作成：令和４年10月３日　加藤

講座名	令和４年度　あきる野市生涯学習コーディネーター養成講座（第５回）		
日　時	令和４年９月22日（木）午後６時30分～８時30分 ＊午後５時30分～６時30分　会場設営他の準備	場　所	あきる野ルピア産業情報研修室
出席者 （敬称略）	講師：本庄美佳　　拓殖大学非常勤講師		
	受講生：（敬称略）：遠藤和代、秋山眞生子、福田喜代子、内田惠子	「欠席」：谷恵理子、山崎敦子	
主催者側	市側：生涯学習推進課　森田係長、中西主事 ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀ会：阿部、矢島　２Ｇ：北岡、佐久間、加藤		
講座 テーマ 司会・進行 北岡	1、講師紹介　北岡 2、講義　90分（質疑応答を含む） 「学びを地域に還元する」 （休憩） 3、「16・17期生との交流」吉田 次回案内：１２月15日（水）pm7時～9時 4、（ルピア産業情報研修室）		
配付資料	・養成講座　①『実践講座テキスト』　②『世のため人のため自分のための地域活動』 （本庄先生が著者の一人として参画）　③ 講座実施計画書用紙		

北岡：資料と日程確認、本庄先生プロフィール紹介

※本庄先生プロフィール

本庄美佳（ほんじょう・みか）

拓殖大学商学部非常勤講師（教職課程の生涯学習概論を担当）。1962年東京生まれ。東京大学文学部社会心理学専修課程卒業。専門は社会心理学。民間シンクタンク、民間企業での勤務を経て、2020 年に早期退職。現在はコンサルタント（生涯学習、キャリア、労務、ファイナンシャル・プランニングの領域）としても活動中。生涯学習関連の論考に、「『人生１００年時代』の『ポスト平成』ライフスタイル展望」、「生涯学習・スポーツの意義と楽しみ方をいかに次世代に継承するか」、「生涯スポーツの実践」などがある。

Ⅰ　学びを地域に還元する

1. イントロダクション　～　「学びを地域に還元する」

1）自己紹介～生涯学習と私

ただいまご紹介いただきました本庄美佳です。本日は「学びを地域に還元する」という題で話をさせていただきます。今年は４名の方が参加されていますので、できるだけ質疑応答を中心に話をすすめていきたいと思います。資料の方はあとでゆっくりご覧ください。

テキストの p43 に本の紹介がありますが、（お手元にもお配りしてありますが）コーディネーターとして参考となる事例が書かれています。参考にしてください。

テキストの p36 に戻ります。最初にイントロダクション～「学びを地域に還元する」とは？ですが、これに続いて 2. 学び～コロナ禍における生涯学習の学び方、3、地域～地域課題・ニーズに応じた多様な学びの活動、4. 還元～学びと活動の好循環、という順に話を進めていきます。

始めに自己紹介～生涯学習と私ですが、私は今年還暦を迎えました。私が学生の頃は、生涯学習よりも「余暇」をどうするかを研究の対象としていました。大学では社会心理学を学びたいと考えていました。「学びたいことを学ぶ」というわけです。

社会人になって２年目（1986年頃）にプログラミングの勉強を始めましたが、“働くために学ぶ”ことに

なりました。「社会人として必要だから学ぶ」というわけです。

1996 年頃の私にとっての生涯学習は、習い事から子供の寝かし方まで様々なことを学ぶ必要がありました。「生きるために学ぶ」というわけです。自分の経験からいうと、いつでも・どこでも生涯学習というのはできると感じています。生涯学習というのは、個人個人でそれぞれの事情により全く異なり、自由で広範なものです。短期の学習もあれば、人によっては、あるとき理解できなかったことが 10 年、20 年後にやっとそうだったのかと理解できるようになることもあり、生涯続くものです。

2)「学びを地域に還元する」とは

若い人は地域コミュニティとすぐになじむことができます。このことを通じて学びを地域に生かすということができるのです。拓殖大学で教えているときの経験ですが、たまたまワクチン接種の予約に際し、八王子キャンパス近くの団地で、学生が高齢者に接する機会があり、なじみになった高齢者に学生がスマホの取扱につき相談にのったりしたことがありました。人生経験豊かな高齢者と若い人との交流ができ、この交流を通じて学びを地域に生かすことができたわけです。

2. 学び～コロナ禍における生涯学習の学び方

1）生涯学習概論を学ぶ大学生のコメントから

・「社会教育士」という職業について

「学び」とは何か？2020 年に拓殖大学で生涯学習概論を教えるようになったのですが、丁度コロナ禍で、思うように授業ができませんでした。一度も対面授業ができずオンラインの授業となることもよくありました。こういった中では、互いに知恵を出し合って授業を進めていくことが大切になってきます。

「社会教育士」という職業があります。人々の自由で自発的な学習を支援する、こうした「学び」を社会のいたるところに仕掛け、豊かな地域づくりを進める専門の人材です。この紹介を学生にしましたら、食いついてきました。学生にコメントを求めたら「いいと思う」とのことでした。地域を豊かにするためには、こうした「学び」を推進する人材が不可欠です。

・公立中学校の部活動の地域移行について

振り返ってみると、自分の時代では、「教員の資格をとる」ということは大切でした。しかし、公立中学校運動部の部活の顧問というのがありますが、これは大変な負担で、現在いろいろな地域で部活動の地域移行について検討が進められています。競技経験のない先生が指導するより、地域の専門の指導者にお願いするという方向です。これも考えてみますと地域を豊かにする一例です。

2）おとなの生涯学習～教える側・学ぶ側、互いに教え合い学ぶもの

コロナ禍の授業で学んだことですが、4 年生はこれまでの対面授業からオンラインに変り戸惑っているようでしたが、たまたまオンライン授業になれている、年齢の近い 1 年生らと話し合うことで相互に情報を交換して対処しているようでした。私も困惑する一方で考える時間もとれ、次年度になると対面授業も入ってきて、うまく対応ができるようになりました。

学生が互いに教え合い学ぶ、教師と学生、教える側・学ぶ側が互いに教え合い・学ぶ、この姿がこれからの生涯学習、「おとなの生涯学習」であることを痛感させられました。教える側、学ぶ側共に新しい柔軟な、スポンジのような心と対面を通して学ぶという「対話」が求められます。

3. 地域～地域課題・ニーズに応じた多様な学びの活動

文部科学省【「第 10 期中央教育審議会生涯分科会における議論の整理」を踏まえた事例・施策集】抜粋より

テキストの p37 の資料①を見てください。文科省のホームページを見ますと、令和 2 年 9 月にとりまとめられたものです。

1） 人生 100 年時代の生涯学習

人生100年時代を迎えて生涯学習の学びのあり方が新しく変わってきています。高齢化している世の中において、地域の多様な人たちが世代間の交流を通して、相互に理解し合い共生できる環境をつくることが求められています。

2）新しい時代の生涯学習

・いわゆる講義形式の“学び”から、疑問を持ち、課題を見つけ、考えを発し、他者と共に考え、新たな考えを創造する生涯学習へ。

・様々な背景を有する多様な世代の人たちとつながり、ともに学び合う。（上記“おとなの生涯学習”参照）

・“オンライン”による学びと“対面による学び”の組み合わせ

・デジタル化

以上、上記“おとなの生涯学習”の例を参照

3）学びと活動の循環

・一人では学びにくい。これをコーディネートすると学びやすくなります。→社会教育士・社会教育主事
（上記「社会教育士」という職業について、を参照）

4）“命を守る”生涯学習

新型コロナウィルスや自然災害に対処するためには、課題の解決に向けて共に学び合い、助け合うということが「命を守る」生涯学習につながります。「誰一人として取り残さない」包摂的社会を実現するためにも今後ますます必要となる「生涯学習」といえるでしょう。

p38～39　地域課題・ニーズに応じた多様な学びの活動

“命を守る”生涯学習、デジタル化、子ども・若者の地域社会参画
（上記「学びを地域に還元する」とは、を参照）

地域課題解決に向けた「豊かな学びの姿」の実現
（上記「社会教育士」という職業について、を参照）

（これらを通して）命を守り、誰一人として取り残すことのない社会の実現へ目指して進むことが重要です

p40 第11回生涯学習分科会（第119回）配布資料

・社会基盤としての社会教育・生涯学習　「地域コミュニティにおける学び」

戦後の公民館活動は、大切な意味をもっていましたが、今は隣に住んでいてもどういう人かわからない地域コミュニティの連帯感喪失の現状があります。地域の連帯感に基づいたかつての公民館とは違った方向が求められています。私はたまたま東京に住んでいて、近くに公民館がなかった環境ですが、地域において一定の連帯感を創出することを支援し、地域づくりの担い手となる地域住民を育成する人づくりの役割を担うことが新しく求められています。それとともに、社会全体が発展していく持続可能なシステムの構築を図っていくことが求められています。

p41-42 地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的事例（杉並区）

地域における地縁的なつながりの欠如による教育力の低下と学校を取り巻く環境の複雑化・困難化とを共に救う一案として地域と学校とが協働して“学び”を支える活動を実施すしていくコミュニティ・スクールの運動が活発化しています。

たとえば、皆さん一人一人が暮らしているあきる野市という地域には、多様な人々が多様な環境のなかでたまたま一緒に住んでいろいろな生活を送っています。互いに幅広く考えて、受け入れていくことが求められています。

p43 『地域生涯学習活動とコミュニティ形成』の紹介

お手元の『世のため人のため自分のための地域活動』という本にも同じ内容の私が執筆した「生涯スポーツの実践～地域バドミントンクラブの発展と課題」という論考が掲載されています。地域のバドミントンクラブですから、楽しいことが重要です。しかし、いかに持続させるかというのがもっと大事です。

「生涯学習・スポーツをいかに次世代に継承するか」というのが私の研究テーマの一つですが、「地域に根差したクラブ」を5～10年といかに長続きさせていくか、このためには若い人を育てて代替わりを果たしていくことが求められます。このときに重要なことは、コアメンバーを育成してスムーズに世代交代をしていくことです。

多様な楽しみ方ができるのがバドミントンの魅力ですが、ここでバドミントンを例にしましたけれども、他のジャンルの地域の生涯学習でも同様な課題があるはずです。「持続可能な地域生涯学習活動」を模索することは、次世代への地域文化継承のために大切なことだと思います。

（休憩）

４．還元～学びと活動の好循環

「還元する」という言葉は、学んだ内容が未来へ波及し、横へ拡がっていく、学びと活動が好循環していることを表します。ワクチン接種の予約に際し、学生が高齢者に接する機会があり、なじみになった高齢者に学生がスマホの取扱につき相談にのったりしたことがあったことを先に述べました。

生涯学習の中で「地域」というのがどういう切り口になるかを次に示します。

１）住民の生涯学習によるまちづくり～住民の学習成果を、自治体の施策に反映

その一つが住民の生涯学習によるまちづくり～住民の学習成果を、事業のことでも福祉のことでも、自治体の施策に取り入れるということが大切です。

２）「地域文化」を追究する住民の学び（地域学）～特色ある地域社会を創造

地域文化、地域の過去の歴史を学ぶ、もう一つが未来へ向けての学び、地域の課題に目を向けて将来の姿を思い描くというのがあります。このようなことが相まって特色ある地域社会を創造することができれば、還元が成就したことになります。“学びと活動の好循環”というわけです。

５. まとめ～講座を企画するにあたって

１）学ぶ側の視点でも考える

講座を受ける側に立って考える、講座に限らず他のことでも逆の立場に立って考えるということは必要ですが、学ぶ側に立って、受講したいなと思う講座を企画することが大事です。いずれにしろ、自分が興味をもっていることが大切です。自分が本当に興味をもっているのか、分からない部分は何かとか、他の人の意見を聞いてみたりするとか咀嚼して、自分が本当に興味をもち、人にも伝えたいときに講座として企画することです。

２）地域を知る⇔自分を知る

地域学での地域というのがありますが、地域を知るということは、結局自分を知るということになります。自分が置かれている環境を離れての自分はあり得ないということです。ですから自分を知るということは、地域を知ることにもなると思います。

あるいは、こういう地域に住みたい、こういう地域にしたいという観点から講座を企画するということもあるかと思います。たとえば、街が汚いと思ったらどうしたらきれいになるか、ということからリサイクル 3R（ Reduce（リデュース）、Reuse（リユース）、Recycle（リサイクル）)の活動に繋げていく。また、自然が豊かな所に住んでいた場合、自分と地域を比べて、今の地域に欠けているものは何か、自分と地域とを関連付けて考える。地域を知ることは自分を知ることになる、知れば知るほど愛着が出てくる。学びと活動の好循環となります。

PTA の活動でも新しい人と古い人とは地域に対する濃さが違います。なじみがないからと言ってしまうと、明日は我が身で、とんでもないことになります。

また地域の活動というのは、次のリーダーを作るという大変な仕事も意味します。

※本庄先生からの受講生への質問を投げかける。

「生涯学習コーディネーターとして企画するに際し、どのようなイメージをもっていますか？」

【質疑】

Q1：50 年は子育てで過ぎ、そのあとの余暇をどうするかを考えています。これから高齢者になるという人向けの企画が難しい。学びたいということもあるし、高齢者が次世代へつないでいくにはどうしたらよいでしょうか？

A1：（人生 100 年時代では）まだまだ半分です。いい役割を果たす時間が十分にあります。

次のリーダーを作るということでバドミントンを例にとりますと、チームの人数に制限があり、またコロナのこともあって、新しい人を入れるのに中断の時期がありました。今は60代、70代が元気ですが、リーダーを引き受けるその次がいません。次のリーダーをどう育てるかで悩んでいます。コロナが落ち着いたら40代の新しい人を入れようと話し合っています。

Q2：今70代ですが、40代後半で体がだんだん弱ってくるのを感じて体操を始めたました。山登りも40代から始めましたが、だんだん故障が多くなってきました。40代50代にもっと運動しておけばよかったと思いますが、そういう機会がもっとあればよかったとも思います。仕事をしている時は、家には帰ってくるだけで自分の住んでいるところをあまり知りませんでした。仕事をしていると、昼間の講座には行けません。40代50代にやりたいことをやっておかないと、やりたいことができません。自分が教えられることが何か、と考えるとなかなか難しいです。料理とか？

A2:グループでやるというのはなかなか難しいです。フリーのお客様だとどんな方が来るのか分からないので、相手に合ったものを勧めるのはスキルがいります。

Q3：私もフルタイムで働いていましたので、色々な所に参加したいと思いましたが、夜も子どもがいたので、躊躇したところがあります。子どもを連れて行ける所だったら参加しやすいかもしれません。

A3：やりたいけどお子さんがいるので、という方を参加しやすくできるとよいですね。

Q4：映画とかコンサートに子連れで行きたかった。子育ての間、土日は野球クラブのお手伝いで終わってしまいました。自分が持っているものを教えるというよりも、講師がいて人を集めるのを手伝う、という方が自分には合っているように思います。

A4:皆さんそれぞれコーディネーターのイメージがあり、やりたいこともそれぞれですね。集客が少なくても、機会があれば出たいという人たちはいます。細々と続けて養成講座を修了してからコーディネーターならではの楽しみもあると思います。

Q：社会教育士はどのようにしたら資格が取れるのでしょうか。生涯学習コーディネーターとの違いは？

A：社会教育士は資格です。生涯学習コーディネーターはそれぞれの自治体が方針を決めて推進していくために定めたものです。

Q：社会教育士になるにはどうすればよいのか。

A：大学で一定のカリキュラムを取った人が（経験がなくても）名乗れます。

Q：社会人でも取れるか。

A：大学の科目履修でとる方法と、社会人で現役の人が養成講座で単位を取る方法と大きく２つあります。現役の人の方が優先されます。社会人の場合は放送大学で科目履修した方が早いかもしれません。

社会教育士の資格取得

※ 1. 社会教育主事講習(4科目8単位)を受講
2. 大学か短大で社会教育主事養成課程を履修
3. 放送大学（2科目、4単位）

資格を目指すことで、やりたいことが分かったりもしますので、（若い子は資格を取ることが目的になりますが）大人は学ぶ方が大事となります。住宅の勉強をしたことがありますが、1つのことを学ぶことでいろいろな“学び”があります。

【まとめ】

気になることがあれば話したりネットを調べたりすることで広がっていきます。ぜひいろいろトライして地域に学びを還元して欲しいと思います。

北岡： ありがとうございました。本日の本庄先生の講義はこれで終了させていただきます。つぎに休憩をはさんで「16・17期生との交流」を実施します。

（休憩）

Ⅱ 「16・17期生との交流」

北岡：先輩の「16・17期生との交流」を始めたいと思います。時間は30分程度を予定しています。

こちらに 16・17 期生を代表して吉田さんに来ていただいています。昨年度は 1 件の代表企画を実施しました。お手元の 18 期生用「令和 3 年度　生涯学習コーディネーター養成講座」実施報告書まとめ（一部抜粋の p20 から、代表企画講座の実施報告書「発酵する在り方」～円からご縁へ～が掲載されています。

企画・運営にあたって、苦労した点、よかったことなどお話いただいて参考にしていただければと思います。吉田さん、よろしくお願いします。

吉田さんの話：吉田真人（まさと）といいます。16 期生です。小学校の教員をしていました。16・17 期生は、ゆっくり農縁えん長の石川敏之さんを講師として「発酵する在り方」～円からご縁へ～という講座を代表企画として実施しました。詳しくは資料の実施報告書の方を見ていただければと思います。

1）“やりたい企画をやる”というのが大事だと思います。
16・17 期生は、3 名でしたが、盛り上がってできました。

2）代表企画講座のタイトルは「発酵する在り方」～円からご縁へ～というのでした（資料の p20～）。“発酵”関係の講座と思った、という人がいて宣伝が難しかったです。必要な人に伝わっているのか、夜だったら出られるという人がいたり、などが大きな課題でした。

3）人を頼るということをして欲しい。
実施報告書を書くことになり、締め切りも近く、先輩方がサポートしてくれて助かりました。困ったら、一人で抱え込まないで相談することが大事だと、自分自身の反省です。

企画にあたってのことでも、そのほかのことでも何でもいいですから質問をお願いします。

【質疑応答】

Q1：準備に当たって、講座のチラシの配布方法はどうしたか。

A1：チラシは配りっぱなしで、置いてくださいと頼んでそれっきりです。知り合いに手渡ししたりしましたが、「どのくらい渡っているか調査する」というのもありかなと思います。チラシを作っただけでは効果はないですから。

Q2：企画された講座は、募集が 30 人で参加者が 19 人ということですが、ローカルな講師のせいかなとも思うし、有名な講師であれば、申し込みが違うのかなとも思います。
食べもの、料理して食べる、という料理関係の講座ならどうかと考えています。男性が料理して奥さんに食べさせる、あるいは奥さんが亡くなって独身の 30 歳男性とか、題名一つでもいろいろな人が来ると思います。

A2：健康課でいろいろなレシピを頼むこともできます。公民館の実習室（定員 40 人）では調理器具が備わっています。

Q&A：（意見交換）

・三内に住んでいます。地元の青ゆずを使った「ゆずこしょう」はどうかと考えています。近所で、1 年に 2 回、はまっています。作り置きができ、1 年間冷凍保存が可能です。
・山形の芋煮はどうですか。学校や地域と協働で川原で実施という形。
・山歩きの指導者を講師にして、五日市近辺の山でいいところがあり、どうでしょうか。
・安全管理の問題もある。
・季節によってできるものとできないものがある。講座を実施する時期が関係する。
・2 カ月前に広報原稿を出す必要がある。
・予算は、市から 1 講座あたり 2 万円を上限として補助が出る。

北岡：ありがとうございました。お手元に講座実施計画書の用紙を 2 枚ずつ配布してあります。可能であればお一人 2 件の企画案を書いて次回にご提出ください。書き方は 16・17 期生の書かれたのを参考にしてください。昨年は 3 名で 11 件の企画案が出され、1 件のみ実施しました。
次回は、リーダー、書記、会計を選んでいただきますのでよろしくお願いいたします。

◎次回案内　　9 月 29 日は「グループ討議（講座企画案提出と討議）」です。開始時間は pm7 時となります。

以上

「講座記録配付先」

１）大串主事経由　生涯学習推進課　佐藤担当部長、沖倉課長、森田係長、

２）生涯学習ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰの会　全役員

３）生涯学習ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰの会　2Ｇグループ員